

昭十四年
三月
五日
發行
福井縣

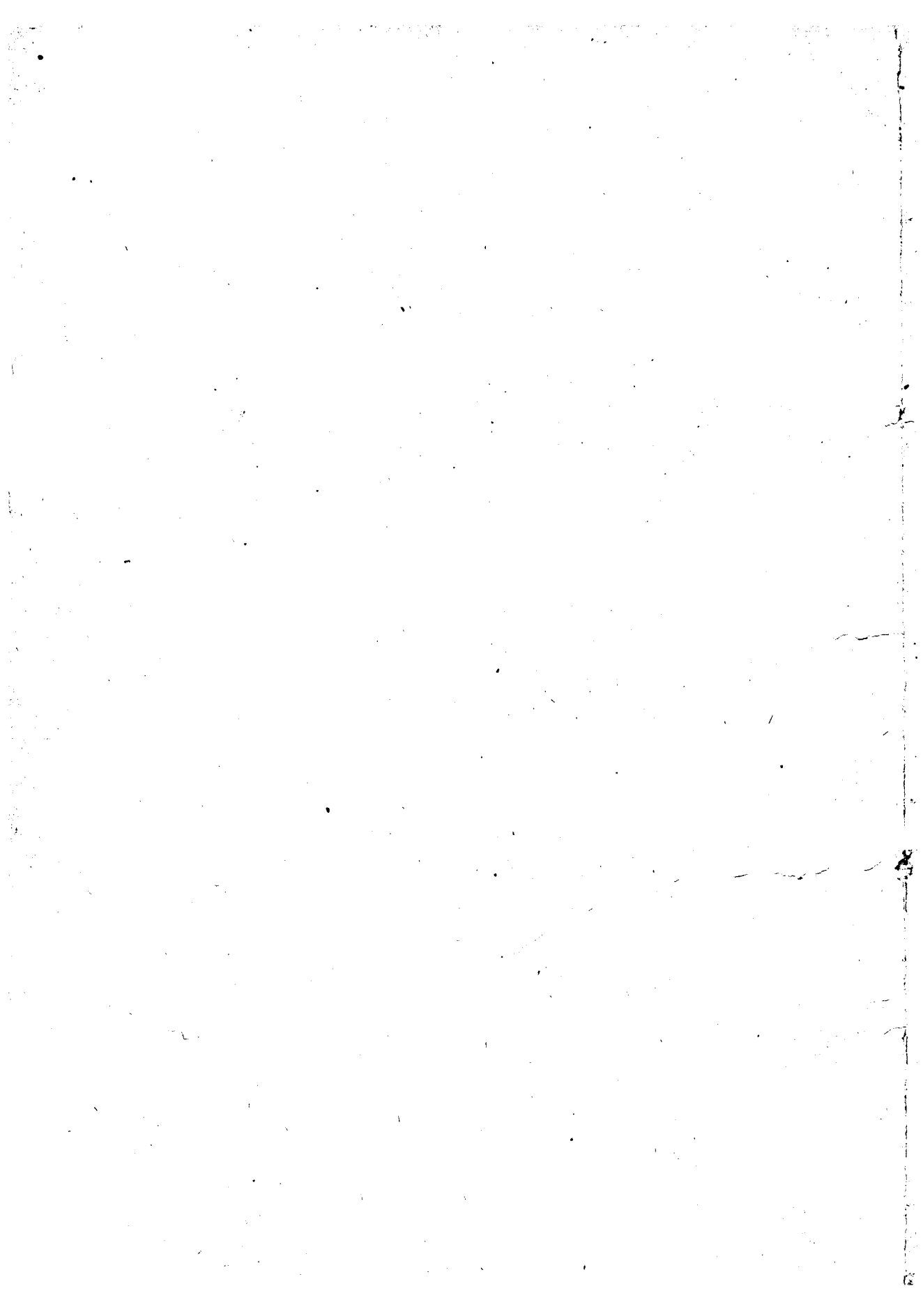
昭和十四年

福井縣統計書

第一編

(土地及戶口等)

福井縣



緒　　言

福井縣統計書ハ明治十四年刊行ヲ以テ嚆矢トナシ爾來縣下行政、經濟、其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ文化ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲毎年之ヲ刊行シ今ヤ昭和十四年統計書ノ編纂ヲ以テ第五十九回ノ記録ヲ重ヌルニ至レリ。本書編ヲ分ツニ其ノ一ヲ土地、戸口等其ノ二ヲ學事、其ノ三ヲ産業、其ノ四ヲ警察、衛生トス

各編ニ収録セル資料ハ市役所、町村役場ヨリノ報告又ハ他官廳、其ノ他公共團體ヨリ直接ニ蒐集セルモノ及廳中各課ノ調査ニ依リタルモノナリ。

蓋シ世運ノ進展ニ伴ヒ統計ノ利用愈々多キヲ加ヘ來タレルニ鑑ミ内容ノ正確ヲ期スルト共ニ其ノ表章方法ニモ逐次改善ヲ加ヘタルモ尙遺憾ナキヲ保セズ將來更ニ檢討ヲ加ヘ時世ノ要求ニ應セシムル所アラムトス

昭和十六年三月

福井縣總務部

昭和十四年福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ昭和十四年又ハ昭和十四年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ、然レドモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又ハ已ムヲ得ザルモノハ昭和十二年若ハ昭和十二年以前ノモノヲ掲ゲタルモノアリ。

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度、何年末ト記スルモノハ其ノ年十二月三十一日現在、何年度末ト記スルモノハ翌年三月三十一日現在、何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間、何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ。

前數年ノ事項ヲ列記シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數一年間又ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルトキハ一位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「.....」一位ニ滿タサルモノハ「0」全ク無キモノハ「—」ヲ填入セリ。

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用ヒテ圓位ニ止メタリ。

昭和十四年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

總 說..... 1

土 地

1 土地總段別..... 4

2 民有有租地地積及賃貸價格..... 4

3 民有無租地..... 5

4 年期地積及賃貸價格..... 6

氣 象

5 測候所..... 6

6 氣壓氣溫及濕度..... 7

7 平均氣壓..... 7

8 平均氣溫..... 7

9 平均濕度..... 8

10 平均曇量..... 8

11 降水日數及降水量..... 8

12 降雪日數及期節..... 9

13 快晴日數..... 9

14 曇天日數..... 9

15 暴風日數..... 9

16 結霜日數..... 10

17 最多風方位..... 10

18 風ノ速度..... 10

19 風ノ平均速度..... 11

20 沿海及河川流域雨量..... 11

21 地方暴風雨信號所..... 12

22 暴風雨標位置..... 12

23 測候所用無線電信機..... 12

24 地震計..... 12

25 地震観測回数..... 13

戶 口

26 市町村別面積..... 13

27 市郡別人口..... 14

28 市町村別人口..... 15

29 推計人口..... 18

30 普通世帯及其ノ人口..... 19

31 現在人口、一時現在者一時不在者及常住人口..... 19

32 人口階級別市町村數及人口..... 19

33 配偶關係別人口..... 20

34 年齡(十七區分)及配偶關係別人口..... 20

35 特殊年齡別人口..... 21

36 婚姻、離婚、出生、死産、死亡總覽(實數)..... 21

37 婚姻、離婚、出生、死産、死亡總覽(比例)..... 22

38 夫妻相互ノ婚姻前ノ配偶關係組合ヨリ
見タル婚姻件數..... 22

39 離婚當時ノ年齡ニ依リ分チタル離婚者數..... 22

40 協議上ノ離婚裁判上ノ離婚..... 23

41 月別出生死亡死産..... 23

42 父又ハ母ノ職業ニ依リ分チタル出生數死
亡者ノ職業ニ分チタル死亡數..... 24

43 日齡又ハ月齡ニ依リ分チタル一歳未滿
死亡數..... 24

44 原因別死亡..... 26

45 胎兒ノ月數ニ依リ分チタル死産數..... 27

交通及通信

46 道 路..... 27

47 官設鐵道線路及敷地..... 28

48 私設鐵道..... 29

49 私設鐵道運輸..... 29

50 郵 便..... 33

51 電 報..... 34

52 電話加入者數..... 35

53 電話料收入..... 36

54 ラヂオ聴取者..... 36

55 諸 車..... 36

56 海岸延長及港灣..... 37

57 港灣ノ狀況..... 37

58 燈 臺..... 37

59 浮 標..... 37

60 船 舶..... 38

61 港灣入港船舶ノ隻數及噸數..... 38

62 敦賀浦蓋斯德間汽船乗容人員..... 39

土 功

63 水害日數..... 40

64 水害損失價額..... 40

65 工事別土木費決算..... 40

66 工種別土木費決算..... 41

社寺及宗教

67	神社及神職	41
68	寺院及僧侶	42
69	各宗派別寺院	42

兵 事

70	壯丁教育程度種別	44
71	壯丁体格檢查	44
72	壯丁身長及體重最高最低	45
73	海軍志願兵	45
74	日本赤十字社員及年釀金	46
75	愛國婦人會	46

議 會

76	貴族院多額納稅者議員互選者	47
77	衆議院議員選舉	49
78	縣會議員選舉	50
79	縣會議員選舉無效投票	51
80	縣會及縣參事會	51
81	福井市會議員選舉	51
82	敦賀市會議員選舉	51
83	福井市會及市參事會	52
84	敦賀市會及市參事會	52
85	町村會	52

官 公 吏

86	縣廳各部分課	52
87	縣職員	53
88	休職官吏及職員	55
89	市吏員	55
90	町村吏員	56

財 政

91	縣市町村水利土功組合歲入歲出	56
92	直接稅負擔	57
93	國 稅	58
94	地 租	58
95	所得稅	60
96	相繼稅	61
97	第三種所得稅種類別決定額	62
98	織物消費稅	62
99	營業收益稅	64
100	酒造稅	64
101	國稅滯納人員及金額	66
102	租稅外國庫收入	66
103	國庫支出縣經費	68

104	縣歲入	72
105	縣歲出	74
106	縣 稅	76
107	縣稅滯納處分	76
108	特別會計ニ關スル縣歲入歲出	77
109	市歲入	78
110	市歲出	78
111	市 稅	78
112	福井市瓦斯事業費歲入	79
113	福井市瓦斯事業費歲出	80
114	福井市水道事業費歲入	80
115	福井市水道事業費歲出	80
116	町村歲入	82
117	町村歲出	82
118	町村稅	84
119	普通水利組合歲入	84
120	普通水利組合歲出	85
121	水害豫防組合歲入	86
122	水害豫防組合歲出	86
123	縣有財產ノ一	87
124	縣有財產ノ二	89
125	縣有財產ノ三	89
126	市基本財產	89
127	町村基本財產	90
128	市 債	90
129	町村債	92

其 他

130	篤行奇特者	92
131	瓦 斯	93
132	瓦斯製造高消費高	94
133	瓦斯火口數及料金	95
134	令達公布件數	94
135	收發文書件數	94

總 說

位 置

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ南ハ北韓三十五度十八分四十五秒ニ始マリ北ハ北韓三十九度十六分三十八秒ニ終リ東ハ東經百三十六度四十六分三十秒ニ始リ西ハ東經百三十四度二十七分十七秒ニ終ル。

北ハ石川縣ニ接シ東南ハ岐阜縣ニ接シ西南ハ京都府、滋賀縣ニ連リ北ハ日本海ニ面シ航路ニ晝夜ヲ隔テテ遠ク浦蓋ト相對ス。

地 勢

越前ハ四面山ヲ繞ラシ中央ニ一大盆地ヲ包擁ス、所謂越前平野ニシテ縣下最大ノ平地ナリ。東北加賀白山ヨリ起レル山脉ハ別山ニ至リ岐レテ二脉ト爲リ重叠起伏シテ國境ヲ限ル。一ハ國ノ東南ヲ走り大日、油坂、蠅帽子、荒島、冠嶽ノ諸峯ト爲リ極メテ急峻ナリ、一ハ北境ニ近ク國內ヲ西ニ走リテ經ケ嶽、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈鏡ノ諸山トナリ西北國道附近ニ至リテ漸ク高度ヲ減シ海ニ近ヅク。國境山脉ノ最高點ハ二ノ峯ニシテ加賀飛騨ノ境ニ聳エ一十九百六十二米白山火山山脉ニ屬シ本縣第一ノ高峯ナリ。又國ノ西方日本海ニ近ク幡屈セル一脈アリテ國見、鷹巢、越知ノ諸山トナリ山脉海ニ迫リテ平地ヲ見ズ、奇巖屹立シ激浪岩ヲ噴ムノ地多ク北端餘脉盡クル所僅カニ砂丘ヲ形成ス。

河川ハ概ネ東南ノ山境ニ其ノ源ヲ發シ西北流シテ九頭龍、足羽、日野ノ三川ト爲リ後合シテ九頭龍ノ本流三國港ニ至リテ日本海ニ注グ。上流ハ千切ノ溪谷ヲ奔リテ隨所ニ水力發電ノ原動力ヲ供給シ漸ク流ル、ニ及ビテ流域一帯ヲ灌溉ス、平坦部ハ所謂越前平野ニシテ土地肥沃ニシテ五穀豐穰ナリ。

若狹ハ越前ト其ノ趣ヲ異ニシ南方ニ三十三間山、百里ヶ嶽、三國峠、八ツ峯、西方ニ青葉山等ノ峰巒國境ヲ限リ北方ニ傾キテ海ニ至ル。從ツテ河川ノ大ナルモノ渺ク南川、北川ヲ其ノ主ナルモノトシ狹少ナル平地處々ニ點在スルノミニシテ水田ニ乏シク爲ニ糞糞ノ發達ヲ來タスニ至レリ。

海岸線ノ總延長百九十八軒ニ達シ嶺北沿岸一帯ハ屈曲ニ乏シク港灣ノ見ルベキモノナシ。之ニ反シテ嶺南四郡ノ沿岸ハ出入甚シク多ク頗ル肢節ニ富ミ岬角參差トシテ複雜極マリナキ形貌ヲ有ス、越前岬ヨリ西方京都府經ケ岬ニ至ル一線以南ハ所謂若狹灣ニシテ古來新府、沈降、隆起、浸蝕、沖積等交々ノ影響ヲ受ケ地形上瀨戸内海、伊勢灣、淀川流域、近江盆地ト不離ノ關係ニ立ツモノナリ、灣内更ニ敦賀、小濱ノ灣入アリ、喪日本海運上幾多ノ將來ヲ有ス。

廣 袤

總面積四千二百六十四方秊餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十三位、山梨縣ニ比シ狹ク、富山縣ニ比シ稍大ナリ。然レ共山地三分ノ二ヲ占ムルヲ以テ廣袤ノ割合ニハ利用面積尠シ。

土 地

本縣ノ土地總段別ハ二十三萬九千四百六十二町步、内官有地五千四百六十二町六段、民有地二十三萬三千九百九十九町ナリ

民有々租地ハ十八萬五千七百七十二町三段ニシテ約七割ニ當リ民有無租地及年期地ハ四萬八千八百二十六町七段ナリ。

之ヲ種類別ニ見レバ官有地ハ山林四千七百四十四町三段、公立學校及官公署敷地七百十八町三段、有租地ハ山林一萬六千六百七十町四段、田四萬八千六百七十七町四段、畑一萬二千九百九十九町三段、宅地四千八百八十三町二段ヲ主ナルモノトス。

戸 口

世 帯 及 人 口

昭和十五年十月一日現在(國勢調査)本縣二市十一郡ノ人口總數ハ六十四萬三千九百四人ニシテ之ヲ前回ノ調査ニ比スレバ二千七百五十五人ノ減少ヲ見タリ。

人口總數ヲ男女別ニ觀レバ男三十一萬二千七十五人、女十三萬一千八百二十九人ニシテ、女百人ニ對シ男九十四人ノ割合ニ當ル之ヲ前回ノ調査ニ比スレバ、男ニ於テ四千三百四十九人減少シ、女ニ於テ千五百九十四人ノ増加ヲ示シ女ニ對スル男ノ割合ハ前回調査ノ結果タル九五・八人ニ比シ前記ノ如ク一・八人ノ減少ヲ見タリ。

本縣ノ總人口ヲ全國總人口ニ對スレバ0.88%ニ該リ府縣中第四十四位ヲ占ム。之ヲ既往ニ就キテ見ルニ大正九年ハ1.07%第四十三位、大正十四年ハ1.00%第四十四位、昭和五年ハ0.96%第四十四位、昭和十年ハ0.95%第四十四位ナルガ故ニ本縣人口ノ全國總人口ニ對スル割合ハ調査毎ニ遞減シタリ。

人 口 ノ 分 布

次ニ縣内人口ノ分布狀況ヲ觀ルニ十二萬五千九百四十一人(19.6%)、ハ福井、敦賀ノ兩市ニアリ各郡中人口ノ最モ大ナルハ坂井郡ノ九萬八千九十八人(15.2%)、ニシテ大野郡八萬一千二百九十五人(12.6%)、今立郡六萬二千五百四十四人(9.7%)、丹生郡五萬六千四百五十八人(8.8%)、吉田郡五萬一千四百九十二人(8.0%)、之ニ亞キ敦賀郡ノ一萬四千九十九人(2.2

%)、最も少シ。

前回調査ニ比シ人口増加ノ最も大ナルハ吉田郡ノ二千七十二人
亞イテ大野郡千四百四十四人、福井市千二百四十人、敦賀市四
百三十五人、大飯郡二百七十三人ニシテ人口減少ノ最も著シキ
ハ坂井郡ノ二千二百二十三人ニシテ、丹生郡ノ二千十九人、遠
敷郡ノ千六百五十四人、南條郡ノ千二百七十五人、今立郡千百
六十三人、順次之ニ亞ケ然レ共之ヲ増加(減少)割合ヨリ觀ル
トキハ増加郡市ニ在リテハ吉田郡ノ4.2%最も高く大野郡1.8%
大飯郡ノ1.5%敦賀市ノ1.4%福井市ノ1.3%之ニ亞キ減少率ノ
最も高キハ遠敷郡ノ3.7%丹生郡ノ3.5%南條郡ノ2.8%坂井
郡ノ2.2%今立郡ノ1.8%順次之ニ亞ケ

次ニ男女割合ヲ郡市別ニ觀レバ女ニ對スル男ノ割合多キハ敦賀
郡ノ女百人ニ付男百二人三ノミニシテ他ノ郡市ハ總テ男ノ割合
少ク足羽郡ノ八十八人六ヲ最少トス。而シテ男ノ割合前回ニ比
シ大野、今立、三方、遠敷、大飯ノ各郡ニ於テ若干増加ヲ見ケ
ル外他郡市ハ孰レモ減少シタリ。

人口ノ密度

本縣ノ總面積四千二百六十四軒四八ヲ以テ總人口ヲ除ストキハ
一方軒當人口百五十一人ニ當リ、前回ニ比シ一人ノ減少ヲ示シ
タリ。

之ヲ郡市ニ付キ見ルニ福井市ハ四千二百三十四人、敦賀市ハ六
〇〇人ヲ示スニ反シ郡部ハ僅カニ二百二十四人ニ過ギズ、尙之ヲ
各郡ニ付キ觀レバ吉田郡ノ三百二十八人、坂井郡ノ二百三十八
人ヲ最高トシ敦賀郡ノ七十一人、大野郡ノ六十三人ヲ最低ト
ス。

交 通

道 路

交通ノ狀況ハ國道二路線、府縣道二百八線此ノ總延長百九十萬
三百三十一軒ニシテ面積ニ比シ少カラザルモ山地割合ニ多キ關

係上其ノ一部或ハ險路峻坂ト爲リ幅員狹少ト爲ルヲ以テ毎年之
ガ改良ニ多額ノ經費ヲ投ヅツ、アリ。

社 寺 及 宗 教

神 社 及 神 職

昭和十四年末本縣ノ神社總數ハ千六百六十八社神職百八十八
人アリ。内官幣大社一、官幣中社一、別格官幣社一、國幣中
社一、國幣小社一、縣社二十七、郷社四十七、村社千二百七
十四、無格社三百十五社等ナリ。

寺 院 及 僧 侶

本縣ノ宗教ハ佛教最も盛ニシテ昭和十四年末ニ於ケル寺院總
數ハ千六百六十七、僧侶千五百九十一人ヲ計ヘ、寺院ニ付
卅帶八十ノ割合ニ當ル寺院ヲ宗派別ニ觀ルトキハ眞宗ノ八百
六十九最も多ク縣下寺院ノ半ヲ占メ之ニ亞クハ曹洞宗二百七
十一、日蓮宗百四十六、天台宗百十四、淨土宗百四、臨濟宗
七十九、眞言宗六十二、時宗二十、黃蘗宗二等ナリ。

官 公 吏

縣 職 員

昭和十五年三月末日現在ニ於ケル本縣職員ハ千九百八十八人
ニシテ其ノ俸給百十七萬三千九百七十四圓トナル内、勅任一人、
奏任三十三人、同待遇者七十八人、判任二百三十一人、同待
遇者八百六十四人、縣吏員三百四十七人、雇員三百三十二人
、嘱託百二十二人ヲ計ヘタリ。

市 吏 員

昭和十四年度末ニ於テ市長二人、助役三人、收入役二人、主
事八人、技師三人、書記九十五人、技手十七人、其他五十六
人、總數百八十六人ニシテ之ノ内、名譽職市長一人ヲ除ク俸
給總額ハ十二萬二千九百九十四圓ヲ計フ、此ノ外名譽職ニ當ル
常設委員四十八人、區長九十四人、區長代理者九十四人ヲ併
セ二百三十六人アリ。

町 村 吏 員

昭和十四年末現在ニ於テ町村長百六十一人、助役百五十七人
、收入役百五十三人、區長二千十一人、區長代理者千九百八
十九人、書記七百五十人、技手及技師員二十七人、常設委員
千四十八人、書記三十五人、其ノ他九十七人、總數六千七百
八十八人トナリ名譽職ヲ除キタル有給吏員ノ給料年額ハ四十一
萬八千九百十八圓トナル。

財 政

縣

縣財政ハ明治十四年即チ置縣當時ニ在リテハ僅カニ二十八萬
三千餘圓ニ過ギザリシガ、日清戰役以來事業ノ勃興ト法令ノ
結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來タシ、明治二十九年ニ至リ
テ約三倍ニ上リ、加フルニ水害復舊工事ニ依ル賠償償還及九
頭龍川改修工事ニ對スル支出等ニ依リ年々縣費ノ増荷ヲ來シ

タリ。

茲ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ル必要ニ迫リ明治三十五年及同三十七年度ノ両回ニ亙リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ戰後ノ經營ト時運ノ進歩トニ伴ヒ益々財政ノ膨脹ヲ來スニ至レリ。加フルニ其ノ後郡制ノ廢止ニ依リ自然事業ノ増加ヲ來タシ、縣債ハ愈々膨脹シタルヲ以テ大正十二年政府ノ旨ヲ體シ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ敢行シ爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ法令ニ依ルモノ、其ノ他縣民福利増進上已ムヲ得ザルモノ等アルタメ昭和十四年度ノ決算ハ八百六十一萬三千五百五十九圓ニ達セリ。

之ヲ前年度ニ比スレバ二萬五千七百九圓、減少シタルモ之ヲ十年前ノ昭和五年度決算六百六十七萬六千六百八十七圓ニ比スレバ百九十三萬三千六百七十二圓ノ増嵩ヲ來セリ。

市 町 村

市町村ノ財政狀況ヲ觀ルニ昭和十四年度ニ於テ市費百四十萬五千七百五十五圓、町村費六百二萬九千五百四十四圓、何レモ豫算ニシテ之ヲ市町村勢實施ノ翌年タル明治二十三年ニ比スレバ市町村費ヲ通シテ更ニ二十四倍ノ多額ニ達セリ。縣ハ不斷銳意緊縮ノ方針ヲ以テ之ヲ卒フル所アリシモ社會ノ進展ニ伴ヒ教育、土木、産業、其ノ他ノ施設ニ迫ラル、ノミナラズ支那事變ノ影響ヲ受ケ自然經費ノ膨脹ヲ餘儀ナカラシメタリ。

諸 稅 及 負 擔

昭和十四年度本縣ニ於ケル租稅負擔ノ狀況ヲ見ルニ直接國稅四百九十七萬九千八百五十四圓、縣稅二百六十三萬一千三百十八圓、市町村稅（豫算）四百二十三萬二千九百九十九圓ニシテ之ヲ一世帶當ニ觀ルトキハ直接國稅三十七圓六十二錢、縣稅十九圓八十八錢、市町村稅三十一圓九十七錢トナル。

港 灣

敦 賀 港

本港ハ日本海沿岸ニ於ケル主要港灣ニシテ灣内廣闊水深極メテ深ク且時常砂洲ノ障害物ナキ爲大船、巨船ト雖モ通航自在且且築碇安全ナリ。政府ハ明治十四年工費十萬ヲ投ジテ金ヶ崎波止堤ノ築設ニ着手シ翌十五年其ノ工ヲ竣ヘ、次テ明治二十九年之ヲ特別輸出港ニ指定シ同三十二年開港令公布セララルルヤ其ノ一ニモ亦之ヲ加ヘタリ。其ノ後西比利亞鐵道ノ全通スルニ及ビ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ明治四十二年四ヶ年繼續事業トシテ工費八十萬圓ノ第一期修築工事ヲ起シ突堤ノ延長、棧橋ノ築設、荷揚場ノ築造、浮漂ノ設置ヲ竣ヘタリ。更ニ第二期修築工事トシテ大正十年更ニ直轄工事ヲ起工シ爾來十ヶ年ノ星霜ト三百六十二萬餘圓ノ巨費ヲ投ジテ銳意之ガ修築ヲ行ヒ、昭和七年三月其ノ竣工ヲ見ルニ至レリ。

昭和十四年中ノ同港入港船舶數ハ七千二百六十八隻此ノ噸數五十五萬二千六百十二噸ナリ。